

## ○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、公明党、松尾陽輔の一般質問を始めさせていただきます。

それでは、早速でありますけれども、一般質問に入る前に、ちょっと気がかりな点がありましたので、1点だけ教育長に御見解をお尋ねして、質問席から一般質問をさせていただくことを御了解いただきたいと思います。

それでは、さきの上野議員も、子どもに対するいじめの問題のことを取り上げられておりましたけれども、今、いじめが社会的問題になっております。暴力によるいじめ、それから言葉によるいじめ、それから書き込み、ネットによるいじめ、特に言葉によるいじめ、書き込みによるいじめ、ネットによるいじめ。皆さん、このいじめは目に見えない影響力があります。昨日の某新聞、さらには某テレビによる改ざんという言葉が与える影響は、社会的に、ましてや教育的に、その影響ははかり知れないものだと感じる一人でございます。皆さんはどう感じられたことでしょうか。

それは、言葉は、文字は時にしてひとり歩きをするということでありまして。言葉、文字は慎重に使う必要があると同時に、言葉の向こうには必ず相手がいるということを考えると、言葉の重みを子どものときから教育の現場で教えていく必要があるかと感じる一人であります。

この点について、まず教育長にお尋ねをさせていただきます。御答弁をよろしく願います。

## ○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

## ○浦郷教育長〔登壇〕

生々しい御質問でありますので、感情を交えずに話すのがちょっと難しいところもございしますが、1つは、就任以来、教育の基盤は信頼関係がつかれるかどうかということでやってきたつもりであります。そういう意味からは、まず、みずからそういう信頼感を損なうようなことになったということは非常に申しわけなく、きのう、おわび申したとおりでございます。

それから、もう1つは、言葉と心をつなぐというのは、特に小学校、中学校の先生方にとっては非常に大事な仕事でありまして、そのあたりも頑張ってきたつもりでありますけれども、おっしゃいましたように、言葉がひとり歩きすることによって、ネットのいじめなどというのは非常に過激な言葉が行き交っておりますし、いじめの例を見たときには、必ずその言葉のやりとりというのが出てくるわけでございます。

そういう面で、御質問の真意を理解しているつもりでありますので、言葉の大事さ、言葉の重み、大切さということをさらに学校教育を初め、いろんな面で指導していきたいという

ふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

きょうの西日本新聞でも、ネットで中傷、学校混乱、安心を守ってという、子どもたちの声が紹介をされております。子どもたちは非常に心が繊細といいますか、影響を受けやすい、小学校、中学校、高校という、そういうふうな成長する過程において、そういうふうな言葉の重みというのを、非常に大事な部分ですから、どうか教育現場でもよろしく徹底のほどをお願いさせていただきながら、あえて改ざんという意味はもう申し上げません。もう皆さんおわかりだと思います。そういった中で、ぜひとも、ひとり歩きする部分に関しては、相手がいるということを常々思っていて、対応していただきたいことを切にお願い申し上げて、質問に入っていきたいと思っております。

今回は4項目にわたって質問をさせていただいております。

まず、市民の声を市政にということ、市長にもいろんな市民の声が届いているかと思えますけれども、私もいろんな声が届いております。そういった中で、4つの声を紹介させていただきながら、その中で見解と、私からの提案を申し上げていきたいと思っております。

2つ目は、防災、減災ニューディール政策についてお尋ねをしていきたい。災害をいかに防いで、災害をいかに減らしていくかという対策でございます。そういった中で、社会資本の老朽化の現状と対策、社会資本といえば、道路、それから橋、河川の施設等の老朽化の現状がどうなっているかということで質問をさせていただきます。2つ目に、土砂災害への対応ということで、7月、武雄市も豪雨災害がありました。そういった中で対策はどうかということで確認をしていきたいと思っております。

3つ目は、就労支援について。さっき上野議員もおっしゃっておりました。障がい者に対して、私は就労ということの中で障がい者の経済的自立支援をどう行政が支援していくのかということで確認をしていきたい。2つ目に、若者の経済的自立支援、3つ目に、生活保護者の経済的自立支援についてお伺いをしていきたい。

最後に、提案事業として、コンビニで証明書等の交付ができないのか、2つ目に、しごと相談室（窓口）の設置をぜひということで、このしごと相談室については、就労支援の中で質問、提案をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。それと最後に、補助金から補助人制度へという考え方の取り上げを、お伺いをしていきたいと思っております。

その前に、今回、市民の声を市政にということ、冒頭質問させていただいておりますけれども、市長に尋ねる前に、我々議員の仕事の一つに、こういった一般質問の中で市民の声を、地域の声を、こういった一般質問の中で市政に届け、市民サービスと福祉の向上をさら

に政策と実現の提案、実現に努めることも我々の一つの大きな、皆さん、役目があります。

そういった中で、今回、図書館に関する市民の声も数多く、私にも賛否の声が届いております。松尾さん、どうなるかという声が届いております。

他市の状況ではなく、当市、武雄市にとって図書館のあり方がどうなのかと、10年、20年を見据えた中でどう図書館の運営がいいのかどうかということの観点の中で私は判断をさせていただいたところであります。

校則、規則も守ってこそ、皆さん、秩序が保たれます。決議されたことには従うという議会の議員必携第2章第2項にも明記をされているところでございます。

ただ、そういった中で、市民の反対の意見も、私は無にすることなく、今後運営していく中でどう生かして、どう取り入れていくかも、市民の負託を受けた議員の一人としての仕事でもあり、取り入れる、検討すべきところは市長もぜひ対策、対応を考えていただきたい。切に思うところでございます。

CCCもいかに図書館サービスを向上させるか、市民サービスを向上させるかという目的で、今回、指定管理者制度に手を挙げられたかと思えますけれども、運営が悪くなることはまずないかと思えますけれども、ここが足りないよといったときには、大いに皆さん、市長にも我々議員にも言っていただいて結構なんです。そういった中で、変えるところは変えていくというのが一番大事な部分ではないでしょうか。市民の図書館ですから。幾らCCCに委託といえども、皆さん、市役所の、官の図書館ですから。

質問に入らせていただきますけれども、市民の声を図書館運営にどう生かしていくかということで1,000人のアンケート調査をされたかと思えます。

そういった中で、まず1点、その調査の内容と結果がどうであったのか、お示しをいただきたいと思えます。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

モニターをお願いします。

（モニター使用）図書館・歴史資料館に関する市民アンケートで、1,000人というふうにしていたんですけど、予想以上に回収率がよくて、1,120件になりました。これは1カ月間かけてやろうと思ったんですけど、やっぱりこれだけメディアに報じられると、書きたいという方々もいらっしゃったりとか、あと、書きたいけれども、書けないという方々については、ここの第3次で書いておりますけれども、なるべくお住まいの近くの公民館であったりとか、支所であったりとか、市内の病院であったりとか、市内の高齢者施設で書いていただくということで、全部で1,120件、8月29日に開始をして、9月5日に閉じました。

これをやる前は、そんなに興味ないだろうと思っていたんですけど、やはりアンケートを

やると、その関心がわあっと、やっぱり巻き起こるんですね。これは、ひとつやっぱりアンケートの効果。多聞第一でよかったかなと思っています。

具体的に、どういうふうに行ったかという、図書館等の会場には職員が立会をしております。これは選挙と同じなんですけれども、ただ、これを見てもらえばわかるように、どういことを書かれたかというのは、職員は知る立場にも、物理的にもありません。自由な意見を御記入していただきました。

ただし、これはインターネットで要望があったんですけれども、とめ置きも用意してほしいということがありましたので、これについては文化会館を中心としてとめ置きを置きました。そこには20件の書類提出があったということ報告させていただきます。

新図書館構想をどう思うかということは、期待するが70.4%、これももう少し正確に言うと、大いに期待する、次は期待する、そしてどちらとも言えない、余り期待しない、全く期待しないということで、5つ設けました。この赤の部分というのは、大いに期待すると期待するということでございますので、これが足して70.4%、期待しないについては、余り期待しない、全く期待しないというこの2つを足し合わせて8.3%ということで、これはもう予想外であります。50%を超せばいいなど、相当これは誹謗中傷を受けましたからね。－〔発議〕－呼ばわりする人も議員から出ましたからね。ですので、そんな中で、期待するというのは70.4%。これは高かろうと低かろうと、これが民意だと思っております。で、期待しないが8.3%でしたので、まあ、これはちょっと予想外に、十七、八%いくかなと思っていましたけれども、やっぱり市民は冷静かつ賢明だなというふうに思います。

じゃあ、図書館の本来機能でどのような機能を充実させればいいのか、これは複数回答可でしたので、足し上げて100%にはならないんですが、まず、やはり開館時間の延長、これが52.5%、次の、今34日間も休んで閉店図書館みたいになっていますけれども、365日開館というのは48.3%、それで、まあ、これもいろいろ批判はありますけど、20万冊という、なるべく閉架を減らして開架を進めるということで20万冊ということで出したのが、これは20.3%、思ったより低いなと思ったのは郵送返却、これはもっと高いかなと思っていたら、やっぱり図書館というのは行くということがポイントなんでしょうね。ですので、これはちょっと予想外に低かったなということを思っております。児童図書についても、これもちょっと年齢層にもあるんですけれども、ちょっと予想外に低かったなということは思っています。

図書館の本来業務以外で期待するものということについては、スターバックスが1番です。次の映画・音楽レンタルが2番、Tカード・Tポイントが3番であると、雑誌販売が次の4番目ということになっていて、これは基本的には予想どおりであります。ですので、これもメディアの力がやっぱり大きくて、スターバックスというのがありとあらゆるところで出ましたので、これに呼応して出てきたということを感じております。

そして、やはり映画・音楽というのは、本だけじゃなくて、映画・音楽が付随して、そこに展示をされているということについても、市民の御期待がそこにあるんだろうというふうには思っています。Tカード・Tポイントについては、まあ、こんなもんだろうと思います。ここは予想どおりであります。

次の、図書館・歴史資料館の企画展によく行きますか。これは、谷口攝久さんですか、やらせだということをしていましたが、どこがやらせですか、これも。あなたの質問がやらせじゃないですか。で、よく行くというのが18.8%、たまに行くが42.3%、余り行かないが27.2%、行ったことがない11%、不明が0.6%で、ここについては、企画展については、これは結構皆さん親しまれておられますので、ここの企画展示室は残す方向で今考えておりますので、さらに企画展については充実をしていきたいし、余り行かない、行ったことがない層をさらに減らしていこうというように思っております。

次の蘭学館、あそこの円形のブース、薄暗いところなんですけれども、ここがポイントなんです。たまに行くが26.7%で、余り行かないが41.5%、行ったことがない24.5%、だから、ここを改善しなきゃ、やっぱりいけないんですね。やはり市民の血税できちんと行われている以上は、そこはきちんとやっぱり出していく。これは牟田議員からも御指摘があったように、全然やっぱり使われていないんですね。リピーターがないという観点から、その場所ではなくて、展示の仕方をもう一回改めて考えると。ですので、蘭学館については、これもよく議会と御相談しますけれども、最初の時点では蘭学館として残したいと思っております。その一方で、これは市民の方々、議員の皆様方の意見を聞いて、どういうふうにもっと市民に親しまれていくかと。私個人とすれば、あそこにそのまま後生大事に置くということは僕は望ましくないと思っていて、できれば企画展示室のところに、例えば、常設展で置くとかというふうには、365日置く必要はないんですよ、全然。保存の仕方等を考えて、そこはもっと市民に親しまれるようにしていきたいということを思っております。

でもね、蘭学館は残せという人は、僕もしょっちゅう蘭学館行っていましたが、一回も会ったことないですね。だから、余り机上の空論を言うのはやめてほしいと、このように思っております。

あと、これはインターネットで全部出しますけれども、1,100枚余、これちょっと見にくいんですけどね、こういう形でアンケートをとりました。インターネット上では全部出します。出して、この意見のあるなしにかかわらず、書かれたものについては出していきたいと。これによって個人が特定されるわけじゃありませんので、もしこれで不都合がある場合は、ぜひ、出すなど。これは通し番号なんですよ。通し番号なんで、それはぜひごらんになっていただければありがたいと思います。

ただ、ごめんなさい。集計がちょっと間に合わなくて、例えば、この中で山内町の方が何%だとかということに関しては、また追って出していきたいというように思っております

ので、きょうのアンケート結果についてはこのようになっております。

いずれにしても、70%の方が期待するという点に関しては、これは高かろうと低かろうと、これは民意でありますので、この件については御支持をいただいているということで大卒の制度設計をしてみたいということを思っております。

一方で、蘭学館等についても、初の調査を行って、大体どこに問題点があるか、あるいはこの自由記載欄の中にもさまざまな御意見がありますので、これは丁寧に分析をして、今後の新武雄図書館構想に十二分に反映をさせてまいりたいと、このように考えております。

いずれにしても、これは情報公開請求なくして、全部インターネットで見られる、しかも、原本は、これは図書館に置いておきます。図書館に置いて、それは閲覧をできるようにさせていただきたいと思っておりますので、これはアンケート結果を実際ごらんになりたい方は、ぜひお越しただいただければありがたいと、このように考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

調査内容と結果、あるいは説明を十分していただきましたけれども、新図書館構想をどう思いますかということで、7割の方が賛成ということですね。それと、機能充実で期待するものということで、前から市民ニーズが高かった時間の延長ということが一番ニーズが高かったと思いますね。それから、開館を365日ということで順位が出ておったようでございます。

ただ、アンケート調査の内容が、やっぱりどうしても限られるわけですね。そういった中で、もう少し幅広い意見を聞きながら、それも聞くのも当然限界はありますけれども、そういった市民アンケートとか、いろんな市民の声を聞く中で、そういうふうな声をどう今後、図書館運営に生かしていけるのかどうか。

例えば、今、賛成ですよというふうな部分もいいでしょうけれども、逆に、どちらとも言えないという方々をどう引きつけるのか、そういった方たちがなぜ魅力を感じられないのか、どこに問題があるのかという、そういう部分の聞き取りも今後は大事になってくる部分があるんじゃないかという、そういう部分を聞いて、今後の図書館運営に反映させれば、より以上の期待感というか、図書館の運営がすばらしいものになるかと思いますが、その点についてどう市長はお考えなのか、ちょっとお尋ねをしていきたいと思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

僕は見解、全く違います。関心がない人に、幾ら関心を示せと言っても、それは無理ですわ。ですので、そうじゃなくて、いかに図書館にお越しただいただくかというのがポイントなん

ですよ。ですので、これだけメディアに報道されて、ツイッター上であらぬ誹謗中傷を受けてね、なっているんで、これは非常にありがたいと実は思っていて、ですので、これで実際活用をしていただいて、そこで使ってみて、あるいは来てみて、ここはこうしたほうがいいとか、ああいうふうにしたほうがいいとかという具体的な意見を聞きたいと思えますね。

ですので、もう3月末までにアンケートするつもりはありません。今やっても、これは机上の空論にしかありませんので、実際使っていただいたときにアンケートをとる必要等があった場合には、それはしていこうと、このように思っていますので、ぜひお越しいたいて、具体的な意見を。

ただね、1件だけ、ちょっと私がうれしかったのは、今回、この手のアンケートで珍しく、お気づきの点があったら御記入くださいというところ、これは結構多いんですよ。これは反対意見の中でも非常にシビアないい意見が実際ありますので、これについてはしっかり承る必要があるだろうと。これは当然のことながら、指定管理先のCCCともきちんと協議をしていきたいと、このように思っております。

できれば、この下のところにあけたのはね……（モニター使用）あけたのは、結果等については10月に公表しますと、まあ、9月に公表しましたがけれども、この下の部分に、こういうふうにしますとかというのをどんどん書き込めればいいなと、赤でね。ということも、ぜひやっていって、アンケートが一方通行にならないようにしていきたいと。これについてはできますとか、これについてはちょっと無理ですとか、これについては、ここは無理だけど、こういう対案ができますとかというのを丁寧にまたしていって、回答をちゃんと、やっぱりやっていきたいなということは思っています。ただ、これは時間がやっぱりかかりますので、すぐにはできないかもしれませんが、そこで双方向性と、あとこれをちゃんと公表することによって共有性をちゃんと明らかにしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私も言おうかなと思っておりましたけれども、図書館、それから歴史資料館についてお気づきの点があったら自由に書いてくださいという欄もちゃんと設けてあります。それで、いろんなコメントもあるようですから、そのコメントをもう一回分析していただきながら、今後取り入れていただきたいということを切にお願いしておきたいと思えます。

それと、今やっぱりネット社会ですね。武雄市もITを推進する事業体としてですね。教育委員会のほうは、ネットでのアンケートは、ちょっと、こうですね、今のところは懸念じゃないでしょうけれども、今の段階で十分という話ですけども、やっぱりネットがこれだけ、いろんな若い人たちの声がネットを中心にあるものですから、ネットでもアンケートを市長、どうか工夫して、とっていただくような形の反映を、若い人たちの声をここで拾い上

げるということも大事な部分かと思えますけれども、それに対して考えをお尋ねしたいと思  
います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

その要望もありましたけど、私は反対です。ネットで無記名でやると、ろくな意見来ませ  
んよ。もうね、つくづく思いました。ネットでやると、便所の落書き未満ですよ、以下じゃ  
なくて。

ですので、私は実際、やっぱりアンケートを書くというのは、非常にこれはアナログが僕  
はすごく大事だと思っていて、ですので、実際、県外からでも賛成、反対にかかわらず、こ  
のアンケートをしたいと、いつからいつまでするというのは僕ら、ネットでも公にしていま  
したので、そこで書いてくださると。これは反対あっていいんですよ。いいんでね、そうい  
うふうに、やっぱり自発的にアンケートを書いてくださるという方のお声を大事にしたい。

なおかつ、どうしても、これは私のフェイスブックでもツイッターでも御批判を賜りまし  
たけれども、書きたいけど書けないという方々はどうするんだという御意見がありましたの  
で、これはそのとおりなんです。ですので、先ほど申し上げたように、これはちょっと場  
所は言うなと言われましたので、言いませんけれども、市内の幾つかの病院、あるいは幾つ  
かの高齢者施設で書いてくださったということでもありますので、私はネットはあくまでも現  
実の補完に使うべき。

それで、私はこの前も議会で言いましたけれども、なかなか集まらないようだったらイン  
ターネットを活用しますというふうに言ったんですよ。だけど、予想以上に早く集まりました  
ので、私はこの件については反対です。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

わかりました。どうかなという思いの中で、ちょっとお尋ねをしたところでございます。

それでは、次に移らせていただきます。

歴史と文化の蘭学館はどうなのかということで、市民の声を私のほうに多分に寄せられて  
おりますけれども、これは市長が慎重に取り扱っていくということですから、またいろんな  
声を市長にも届けていきたいと思えますので、蘭学館の、また歴史と文化のある部分に関し  
ては検討していただきたいと思えます。

それと、図書館内に情報拠点、発信拠点として市民コーナーの設置を、市長、どうですか  
という御提案をしていきたいと思えますけれども、図書館を中心としたコンパクトシティー  
構想、きのう黒岩議員のほうからシェアハウスも一緒に兼ねたという部分の話がありました



けれども、図書館を中心にした、私は芸術文化都市のゾーンの展開をあの一帯につくっていただければ、コンパクトシティという構想の中で、より以上のすばらしい拠点がですね、市長、きのうは、そこを知的活動拠点というふうな話をされておりましたけれども、私は、あわせて第2の市民サービス情報発信拠点地と位置づけをするためには、ぜひとも市民が安心できる図書館内に市民コーナーという、仮称ですけれども、そういうふうなコーナーをぜひ設けていただきたいという思いで、ちょっとこの分に関しては提案というか、ぜひ反映させていただきたいという思いの中で、市長の見解をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

これ、よく考えると、コンパクトカルチャーシティ——CCCですね。あんまり大したことなかったですね。

私もこれは実は賛成で、なるべく集約をさせるというのは、すごく実は大事だと思っています。それで、今ちょっと調査中なんですけど、今度、コミュニティーFMをできれば来年度中にということは議会でも申し上げたんですけれども、そのFM局のスタジオを図書館の、今のカフェコーナーのところにできればいいなと思っています。ただ、これは今調査中ですし、物理的にこれはできるかどうかというのは、もう少しちょっと時間をいただければありがたいと思っています。

それで、市民コーナーについては、私も賛成で、ただ、図書館というのは静穏というのがまず第一なんで、できれば、きのう黒岩幸生議員さんにお答えをいたしましたけれども、その横にシェアオフィス、シェアハウスを低層で、ちゃんと、今の図書館と同じ外観でできたところに、その市民コーナー、ちょっと小さいのかなと思うんですけど、そこはぜひつくっていききたいというふうに思っています。

その一方で、今、議会にも御苦勞かけておりますけれども、庁舎の問題検討特別委員会をしてもらっていますし、私どももありますし、市民の委員会もありますけれども、この機能というのは、今度新しい庁舎の中にやっぱりしっかり埋め込んでいききたいと思っていますので、ぜひ、どう考えても場所が図書館の内、あるいは図書館といっても駐車場の確保も必要ですので、この部分の本格的な展開というのは、今度の新しい庁舎に私はゆだねたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひ前向きに検討していただきたい。やっぱり市民にとっては、市の顔が見える、市の顔

があるという安心感が出てくるかと思えますから、特に今からは来館客が非常に急増ということも話が出ておりますので、ぜひとも前向きに検討していただきたいという思いの中で、次の質問に入らせていただきます。

次に、市民の声を市政にということで、武雄市の未来を担う子どもたちの声を市政にということで、4年前にこども議会の提案をさせていただいて、今回で4回目のこども議会が実施をされました。これは8月18日、こども議会の開催の状況です。このモニターを使いながら、すばらしい質問、提案が出されておりました。

例えば、武雄中学校では、水害対策についてどうなのかと、市の考え、あるいは武雄北中学校では、お結び課の活動内容についてという話、あるいは川登に関しては食について、山内中学校については、武雄市の花ツツジ、ツツジロードをつくってはどうか、また北方中学校に関しては、積極的に活用されない公共施設をどう子どもたちが利用するのか、また、今回より武雄青陵中学校が参加をしてくれました。武雄市のPRを兼ねた鉄道高架をいかに活用するかということで質問が出ておりました。

そういった中で、ぜひとも子どもたちの声を、こども議会でのいろいろな形で提案も要望も受けておられたかと思えますけれども、こういう場をもっと幅広い将来のまちづくりのために、ぜひとも継続して実施をさせていただきたいと思う中で、あえてもう一度、市長のこういった形の取り組みに対して御感想をお尋ねしたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

いや、こども議会はよかったですね。本当によかったですよ。どこかの議会と違うとは言いませんけれども、本当によくてですね。何がよかったかという、やっぱり前向きなんです。前向きに、自分たちもこうするから、大人の人たちもこうしてくださってということ。どこかとは違いますね。ですので、非常にさわやかな印象を受けました。

その一方で、実は、何でこれをやろうかと思ったのかは、松尾陽輔議員さんの4年前の一般質問なんですね。ですので、一般質問、本物の一般質問の持つ意味ですよ。一般質問で松尾陽輔議員さんが、これはやるべしとおっしゃって、最初は、せんほうがましなと思よかったとですよ。どうせ、こい、また偽物ちきにもなっしですね。ただしね、そのときの議長も偉かった。今、議長ですけど、また。これはぜひ、やるんだったら、議長から御指示をいただいて、執行部もちゃんと答弁をする、市長もちゃんと座りなさいということで、もう本当に大人の本物の対応をしたということが、これは非常に高い評価をいただいていますし、この武雄モデルというのが全国に今広がっているんですね。県内どころか、もう全国に広がっていますので、やっぱり我々が本物を追求したという観点からすると、もっとやっていきたいと。

長くなりましたけど、ただ、やっぱり回を重ねるごとに、もう何か理科の研究発表みたいになってきたんですよ。これはやっぱりよくない。ですので、もっと子どもが自由に伸び伸び言えるようなものができないかなと思っています。その中で、再質問がなかったのは寂しかったね。去年は再質問があつて、僕ら、どきどきしましたから。だから、納得できないことに関しては、さらにこれはどうなんだということを言えれば。でも、余りこれを言うと、必ず様式美として再質問が入ってくるんで、そこはちょっと僕らも注意しなきゃいけないんですけど、もう少し自由度のあるのができればいいなということは思っています。

ただ、やはり、後で子どもたちに聞いたんですよ。どうだったって聞いたら、すごくよかったと。何人かが、私も議員になりたいと、あるいは市長になりたいという子たちもやっぱり出てきたんで、これもまた成果の一つだなと。だから、自分たちがやりたい職業として、やっぱり政治家を選んでくださるということについては、このこども議会の果たす役割というのは、その意味も大事だと。

あと、これね、結構、ケーブルワンで流れていますので、大人がまたよく見ている。

そういうことですので、これ以上は言いません。

#### ○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

#### ○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私もじかに傍聴させていただいて、いろんな提案も出ておりました。年々内容も深くなって、すばらしい子どもたち、10年、20年後の武雄市を背負う子どもたちの将来を楽しみにしております。

それと同時に、防災会議に積極的に女性を登用し、女性目線で防災対策の充実をということで、今回の大震災の中で、女性の目線というのが防災でも非常に、男性ではわからない部分が、女性が入ることによって、いろんな対策が講じられております。

ただ、そういった中で、こども議会もしかり。まちづくりに市長、ぜひ女性の声をもっとどこかで拾い上げるような、女性の市長と語る会じゃないでしょうけれども、そういうような場をぜひ設けていただきたい。

豊かな女性の力を市政にということ、韓国の名門のチャンモン大学のファン総長夫人の言葉をちょっと紹介させていただくと、山口裕子議員も言われておりますけれども、職場でも地域でも男女共同参画が叫ばれ、女性社会参加がますます進んでいる。男女平等とは、単に女性が男性と平等の権利を勝ち取ることではあるまい。今からは女性が文化や情報、知恵に象徴されるソフトパワーによって賢明に伸び伸びと忍耐強く時代を、地域を動かし、変革していくことではないだろうかという、女性妙にも紹介をしていただいております。紹介させていただきましたけれども、市長、ぜひ将来のまちづくりに女性の声を、ちょっと仮称で、私もどういふふうな形での取り組みがいいかはちょっと今検討をしていますけれども、年に

2回、3回程度ぐらいで、いろんな若い人たち、若い女性の声、あるいは若いお母さんたちの声をどこかで拾い上げながら取り組んでいただきたいということを今回また提案をしたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、そう言われてもですね、どう拾い上げていいのかというのが、なかなか。

すみません、これは少しプライベートな話になるんですけども、私はフェイスブックをやっている、ブログの書き込みとか、あるいはメールをいただくので、大体7割は女性です。ですので、物すごく山のように来ますので、そういう意味では、何か、若いね、メールされる方というのは年配よりも若い方が多分多いかと思えますし、それは匿名、そうじゃない場合もありますけれども、かなり私のところには来ています。

あと、何というんですか、市長と語る会で女性版というのいいんですけど、私、人気ないですから、来ません。よそでは来ますけどね。

ですので、どうすればいいんでしょうかね。ただ、女性の声を聞くということについては、これはすごく実は大事だと思って、ただ、女性って出づらいいんですね。主婦されている方は、夜なかなかね、家事とかで出られないとかというのはありますね。どういうふうすれば。

きょう、川良の区長さんが、女性区長さんで、すばらしい区長さんですけど、傍聴にお見えになっていきますけど、後で相談したいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

もう少し私も検討しながら、また改めて市長に御提案をさせていただきたいと思えます。

それでは、次に、地域の安心・安全のまちづくりという視点の中で、保護者、あるいは地域からいろんな声が出ております。6月にも一般質問をさせていただいた通学路の危険箇所と再点検を8月末までにということで、今回は3省庁、国交省と文科省、それに警視庁が加わって、8月末までに再度総点検しなさいという通達が来ていたかと思えます。まだ、ちょっと、8月末、調査結果がまとまっていないかどうか、よくわかりませんが、その辺の危険箇所の再点検の結果はどうであったのか、まずお尋ねをさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

お話にありましたように、警察、それから市役所でいきますと総務課、建設課、教育委員

会、学校と、こういう形での安全点検というのは、ちょっと初めて私どもも経験したわけです。

それで、通学危険箇所63カ所ほどあったわけですが、そのうちの、各校区で最低1カ所はしっかり見るということで、ずっと合同の点検をしていただきました。

お話にありました……（モニター使用） こういう形で、これは武雄小学校の東側でございますが。同じところですね。それから、武雄小学校の周辺がありますが。実際に点検の結果を受けまして、前の写真と見比べていただくといいと思うんですが、これはできることはしましようということで、すぐに建設課のほうで対応していただきまして、国のほうもそれぞれの機関が連携してということでしたけれども、非常に大事だなということを改めて感じておるところです。

新たな危険箇所という形では、その後、受けておりません。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

24年版の交通安全白書では、昨年の交通事故死者数が4,612人、11年連続して減少傾向にあるわけですね。ただ、1970年代には全国で1万6,765人ですよ、交通事故で亡くなった方が。約4分の1に減少はしたものの、死亡者数の中で歩行中が急増の状況ですね。子どもたち、あるいは高齢者の方々の死亡が急増ということで、私も、質問するからには現場を見ながら、いろんな形で見てまいりました。

これは若木と朝日の町境ですけれども、ここからファミリーマートまでの約2キロは横断歩道がないわけですよ。やっぱりどうしても、ここに書いていますように、歩行者が多い少ないで、なかなか横断歩道ができないというふうな状況ですけれども、やっぱり行政の役割は、1人の命をいかに守っていくかということが大事な視点じゃないでしょうか。1人の命は一緒ですから、そこに通行量、あるいは歩行者、また世帯が少ないから、多いからという部分の観点で捉えられては非常に問題があるというふうな形で、こういったところも調査をされたのかどうか。

あるいは、前回、これは若木町の皿宿区ですけれども、ここに白線の歩道をぜひ引いていただければ、スピードも若干落ちるんじゃないかと。通学の時間の規制をすると、なかなか地域の利用者の方から、いろんな形で支障を起こすというふうな話も出ておりますから、ここにもいろんな手をもう少し加えればどうかと。

あるいは、これは武雄町の川良ですけれども、以前、黒岩議員も危ない看板を言われました。撤去をすべきじゃないかと、わかっている以上はということですね。これは川良ですけれども、ここに安全ポールが立っております。それで子どもの看板があります。この先は信号機ができたもんですから、こっちの迂回で抜ける交通量が非常に急増ということで、地

域の方から相談がありました。そういった中で、ここにぜひとも側溝にふたをつけていただきたいと。夜、ここで落ちて骨折したと、落ちそうになったという方の相談というか、もあるものですから、ぜひこういうふうな形で、危ないポールですよという形で立っている以上は、ぜひここに、地元の方ともう一回協議をしていただいて、側溝あたりのふたをしていただければ、安全な道路確保ができるんじゃないかということでは思っているところでございます。

そういった形で、いろんなところでまだまだ安全に対する箇所があちこちあるかと思えますけれども、どうしても優先順位があるかと思うんですね。また、そこには予算がどうしてもついてくるものですから、そういった中で、予算がついていない、また次年度に繰り越しになった部分に関してのおくれるところの危険箇所に対する対策は、どういうふうな形で対策を考えておられるのかどうか、確認をさせていただきます。御答弁をお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

お話の中には、教育委員会で対応できかねる部分もあるわけですが、実際にこのような形ですぐ対応していただいたということは、武雄小学校の場合でありますと工事中でもありますので、非常にありがたいなということを思ったわけです。

それからまた、土木事務所からも、今年度でできること、あるいは今後計画にのせるところ等々を連絡をいただいております、合同の検討のよさと、すばらしさというのを感じたわけです。

当然、これは子どもたちの安全指導、あるいは警察と協力しての安全指導ということ、それからまた、何度も言ってきましたように、とにかく自転車に乗るときはヘルメットをという子どもたちへの指導と並行して、こういう学校としてできること、そして連携してできることをさらに進めていきたいというふうに思っております。そのためには、それぞれの行政の方、それから交通安全協会とか地域の方々の協力をいかに得るかということでもありますので、その辺を特に今後注意していきたいというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

これも佐賀新聞の7月25日ですけれども、佐賀県内の通学路の歩道整備率が出ておりました。市町道では、まだ28%しか整備が済んでいないという報告が出ております。まだまだ子どもたちの安心・安全の通学路の確保に関しては、まだ整備がおくれているというような状況の中で、毎年、予算関係がどうなっているのか、予算拡充がされているのかどうか、それはまた11月、決算委員会がありますから、その中で安全対策、子どもたちに向け

た、通学路等の安全対策の予算の拡充については確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、ぜひとも、また地域からいろんな危険箇所の要望が出てくるかと思っておりますから、早急な対応を教育長、切にお願いを申し上げておきたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。

それでは、2番目の質問に移らせていただきます。

防災、減災、いかに災害を防いでいくか、災害を減らしていくかという視点ですけれども、社会資本、要するに橋、道路、河川施設等の老朽化の現状と対策についてお尋ねをしていきます。

6月に、河川の可動堰が非常に最近老朽化ということで、地域も、また農業関係者からどうしていいのかということで話が出ておって、市に対策を6月の一般質問で求めておりました。そういった中で、私も現場を走りながら見ながら、また自分なりの調査をさせていただきました。

可動堰の老朽化対策事業として、国の三位一体改革の中で、地域自主戦略交付金として国から県へ移譲されておるわけですね。これが24年度の県予算が90億3,400万円、要するに水利整備事業としての県の裁量で、予算というか、事業が進められていくわけですけれども、これにはなかなか当てはめにくいというか、いろいろ制約があったものですから、もう少し進めて、いろんな方面から聞き取りをさせていただいて、農業用河川工作物応急対策事業がありました。これに関しては工事費が5,000万円以上は国が50%、県が32%、地元が18%ですね。工事費が5,000万円から1億円になったときには市が8%、1億円以上は8%というふうな対策事業にたどりつきました。現に若木町でも一、二カ所、こういうふうな形でもう現に事業が、要望が、修理があっている箇所が出てきております。

そういった中で、ぜひとも可動堰に関しては、今の状況、実態を十分、担当部署に関しては調査をさせていただいて、いろんな形で、もし故障が起きたときには多額の費用がかかるわけですね。そういった中で、現在の状況を確認していただきながら、例えば、1カ所で3,000万円かかったとしたときに、2カ所だと6,000万円ですね。市の負担、地域の負担は、この5,000万円から1億円の総体的な工事をすれば、地元の負担割合が少なくなるわけですね。そういうふうなことも非常に、いろんな形で検討していただき、いろんな形で地域のいろんな区長会とか、いろんな農業団体の組織がありますから、それは執行部からも説明のほどをさせていただきたいと思っております。

そういった中で、学校の耐震化も確実に進んでおります。佐賀県でも11年度には、もう77%が完了、耐震化ですね。また、今年度にはもう9割方、耐震化が終わってしまうと。武雄市も学校の耐震化に関しては確実に進めていただいている状況であります。

そういった中で、佐賀県の建設後50年以上経過する橋の割合が、データがありましたので、御紹介をさせていただきます。

橋の長さが15メートル以上、これが県内に623カ所あるわけですね。それが08年、50年たったのが35カ所、18年、あと6年後には県内で94カ所、28年、あと16年後には202カ所、26年後にはもう半分以上が50年、コンクリートの耐用年数が切れるわけですね。

そういった中で、橋の長寿命化修繕計画の推進をぜひ検討すべきじゃないかということで思っております。

この長寿命化対策とは、施設の状態を定期的に点検、診断し、異常が認められる場合には、致命的欠陥ですよ、致命的欠陥につながる前に速やかに対策を講じ、ライフサイクルコストの縮減を図る予防、保全の考え方に立った戦略的な維持管理、更新を行うものと。要は、これは予防医療と全く考え方は一緒なわけですよ。人間の体と全く一緒。

そういった状況の中で、橋の長寿命化計画をぜひお願いしたいということで、私も願う以上は、各地の橋の状況を見てきました。

これは朝日町の高橋に、旧国道にかかっている橋ですね。これは高橋の町内の橋です。

これは若木と武内の間にかかる橋ですね。昭和35年2月に竣工ですよ。もう築52年たっています。もう築52年ですよ。

これは若木ですね。今、高速道路が建設中ですけども。（発言する者あり）これは若木バイパスですね。申しわけございません。準高速。それが昭和49年、築38年ですよ。あと12年で、もう50年を迎えるということの状況の中で、武雄市もぜひこういうふうな河川に対する、橋に対する、こういうふうな状況を把握されているのかどうか、まずその辺を確認させていただきたいと思っておりますけれども、御答弁をお願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

石橋まちづくり部長

**○石橋まちづくり部長〔登壇〕**

議員御指摘の長寿命化計画でございますが、武雄市においては平成22、23年度で対象橋梁139橋を調査いたしております。

この139橋の考え方でございますが、重要橋梁ということで、15メートル以上、あるいは幹線道路的なもの、あるいは孤立路線等にかかる橋でございます。

なお、その結果でございますが、致命的な損傷等は発見されておりません。

なお、今年度、平成24年度で、今度は財政を含めた計画を策定する予定でございます。実施につきましては、平成26年度から国の交付金を使いまして、55%の国の交付金でございますが、これを使いまして、順次修繕をしていこうと考えておるところでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

市内で139橋ですか、今後計画を立てていくということで答弁をいただきました。



要するに、予防医療の考え方に立って、ぜひとも、その効果、長寿命化対策の効果は何かといいますと、安全性、それから信頼性の確保ですね、市民にとって。あるいは、ライフサイクルコストの縮減、さらには、一遍に改修にかかると、どうしても財政を圧迫しますから、それに関しては財政の予算の標準化と時期の標準化という形で計画的に進められていくかと思えますから、ぜひともこれは、防災、減災ニューディール政策として計画的な推進をぜひともお願いをしておきたいと思えます。

そういった中で、土砂災害のハザードマップの作成状況についてお尋ねをしていきたいと思えます。

佐賀新聞に、いつでしたか、土砂災害警戒区域指定が進まず、ハザードマップがつかれないということで、新聞記事が出ておりました。例えば、佐賀市、伊万里市、多久市、唐津市では、つかれない状況も公表されていたようですけれども、武雄市の今のハザードマップの作成状況がどうなっているのか、ちょっと確認をさせていただきます。御答弁をよろしく願いいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

角政策部長

**○角政策部長〔登壇〕**

土砂災害防止法によって、土砂災害の警戒区域、いわゆるイエローゾーン、それから特別警戒区域のレッドゾーンという、それを指定していくわけでございます。新聞報道によりますと、非常に県内でもおこなっているということでございますが、武雄市におきましては、若木町でイエローゾーンのみが116カ所指定されております。この後、若木町のレッドゾーンを指定していただければ、ハザードマップはその後つくれるという、そういう状況でございます。市内では若木町のみがということでございますので、今後、レッドゾーンが指定された上でハザードマップをつくりたいということでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

これね、制度の趣旨に反するわけじゃ、私自身が反するわけじゃないんですけど、これちょっと困った話があってね。これ指定すると、所有者が、地価が下がる、あるいは規制がかかって、あれなんですよ、例えば、横に何かつくるとかというのはできなくなるんで、これは非常にちょっと困るんですね。

この地区で、何か自分のプライベートなエリアでも、何かあったときに、じゃあ国がここは面倒を見ますということがあれば指定のしがいがあるんだけど、指定したばかりに、されたばかりに、何というんですかね、地価が下がるとかなんとかないと、これはちょっと制度そのものが果たしていいのかなということがあるとは思えます。

この区域を指定するというのは賛成です。賛成するんだけど、やっぱり日本の場合は土地の所有権とか非常に強いんで、そこでやっぱり進んでいないというのはやっぱりあるんですよ、聞いてみると。だから、ちょっとこれは困ったなと思っているんですね。これ指定してね、土地の価値が上がればいいんですけどね。そうはならないみたいなのでね。ちょっと困っています。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

その前に、若木町だけの取り組み、ほかの他町というか、橘とか武内あたりはどのような形で考えておられるのか、ちょっとその前に確認をさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

県のほうは、他の町についてはまだ全然取り組まれていないということでございます。この次は武内町でイエローゾーンの指定に取り組むという話をお伺いしております。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

それは計画的によくお願いをしておきたいと思います。早急にですね。

ただ、市長が先ほど申されたように、大事なことではあるけれども、指定した反面、いろんな弊害がそこにあるというのは現実でもあります。

そういった中で、9月1日、今月ですけれども、国会議員の上田議員と一緒に現場を見て回りました。牟田議員も、5棟原則というふうな形で、災害が起きたときにはいろんな補助対策事業がありますけれども、そういった中で災害現場を国会議員にじかに見せながら、いろんな周辺部の課題も訴えをした、相談というか、要望もさせていただいたところでございます。

要は、いろいろ、農林課、建設課と話を進めていく中で、やっぱりどうしても自分の家は自分で守るのが、それは当然原則ですね。ただ、やっぱり自己負担の軽減をということで、どうしても高齢者の世帯が多い状況の中で、災害関連地域防災崖崩れ対策事業も調べました。補助率が50%、県40%、市が10%、あるいは県単農林地崩壊防止事業、補助率が県が50%、市が50%、うち自己負担が関係者が25%というふうな状況の中で、非常に事業の使い勝手が制限があるわけですね。

そういった中で、いろんな、ぜひとも柔軟な対応をとっていただきたいということで、実

際、国会議員に来ていただいて現状を見ていただいたところです。これも議員としての大きな仕事であります。

そういった中で、今後、使い勝手のいい事業を、柔軟性のある事業を市からもぜひとも要望していただきたい。要は、崖の前には家があるわけですから、本来であれば農林地崩壊事業じゃないわけですね、実際言えば。のり面の山林、あるいは田畑の崩落に対する工事じゃないわけですよ。下に家があるわけですから。やっぱり建設的な、建設事業でこれは当たるべき工事なんですね。

ただ、建設事業でいけば費用が多額になってくるものですから、多額になるということは、自己負担が非常に多くなるというふうな状況ですから、この辺の関連というか、この辺は、先ほど言いましたが、国にも私も積極的に柔軟な対応を要望していきたいと思っておりますけれども、その辺を市としては柔軟的な取り組みをぜひとも要望していただきたいと思っておりますけれども、見解をお尋ねしておきたいと思っております。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長（発言する者あり）

○樋渡市長〔登壇〕

私語は慎んでください。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○樋渡市長（続）

うちの、やっぱり石橋部長は、人柄の部長ですよ。

やっぱり、今、議員おっしゃったとおり、負担割合は県が50%、市が25%、所有者が25%というふうになっていて、県の50%をふやせて、これは無理ですもんね。ですので、この、何というんですか、部分について、市の負担分というのを、例えば、身寄りがいらっしやらない方とか、所得がどうしてもできない御高齢者の方とかというのは、市の負担をふやすということで、制度設計をもう一回やり直そうと思っております。もう部長がこれをぜひ言うてくれということです。残りわずかですけれども、多分、彼の最後の仕事になろうかと思っておりますので、そこはちょっと期待をしたいと思っております。

今回も、佐賀県内でもこの事業って、これ6市が同じなんです。この割合というのは同じで、2番のところは同じなんですけれども、同じような話がやっぱり出ています。伊万里でも出ていますし、いろんなところで出ていますので、これについては、やっぱり、その市長さんと話していても、市の負担をちょっとふやさなきゃいけないよねということはおっしゃっていますので、そこの関連性も含めて、柔軟に対応してまいりたいと思っております。

ただ、これは皆さんがそうじゃなくて、やっぱり自分の土地というのは自分の土地なんで

すよ。ですので、それが原則です。しかし、どうしてもできない、これを放置しておく、また2次災害、3次災害になりかねない方というか、社会的に、経済的に弱い方を、そこはきちんとケアをしてみたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

前向きの答弁、大変にありがとうございます。

どうしても周辺部は山つきの家が多いわけですね、どうしても。安全面からするぎ、一番、田んなかのど真ん中につくったが一番いいわけですけれども、今の状況を見ると、どうしても田舎、周辺部は山つきに家が建っておりますから、そういった中で、財政は厳しい状況ですけれども、命を守るという視点からいけば、そういったことで対策を講じていただきたいということで、また、いつ何どき、そういうふうな災害がまた起こるかわかりませんので、早急な制度の見直しを切にお願い申し上げて、次の質問に入らせていただきます。

次は、就労支援について、まず最初に障がい者の経済的に自立についてお尋ねをしていきたいと思えます。

先ほど上野議員から、幼児の障がい児の支援をということで切実なる思いを今先ほど上野議員もおっしゃっていましたが、私のほうからは障がい者の経済的自立支援というふうな形で話をさせていただきたいと思えます。

市長、就労支援は市の重大な政策として、ぜひとも位置づけをしていただきたい。そういった中で、県内の有効求人倍率、7月ですけれども、0.75ということで非常に厳しい求人状況が公表をされております。そういった中で、やっぱり障がい者も非常に厳しい、一般就労に関しては。そういった中で、障害者雇用率制度というのがありますけれども、民間企業、国、地方公共団体は、障害者の雇用の促進等に関する法律により一定の割合が労働者として雇用することが義務づけられております。法定雇用率が1.8%。

こういった状況の中で、市の今、雇用率が何%、何名雇用されているのか、確認をさせていただきます。御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

市職員の中で障がいをお持ちの方は現在9名ということで、雇用率につきましては2.74%でございます。

〔市長「法定雇用率も言わんばさ。法定雇用率の2.1%で2.74て言わんば」〕

法定雇用率は、ちょっと民間より高くなっておりまして、2.1%となっているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

地方公共団体は2.1%で、2.74ですね。大変にですね、障がい者の雇用、ありがとうございます。

ただ、そこで、障がい者も身体障がい者、それから知的障がい者、精神障がい者という方々がいらっしゃいます。知的障がい者、精神障がい者の雇用はいらっしゃるのかどうか、ちょっとそのことで確認を、知的障がい者、精神障がい者の雇用もされているのかどうか、ちょっとお尋ねをさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

9名のうち1名だけいらっしゃいます。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

身体障がい者の雇用も大変な状況ですけれども、一方で、やっぱり知的障がい者、精神障がい者の雇用も非常に厳しい状況にあるのが現実でございます。

そういった中で、特に一般就労に結びつきにくい知的障がい者、精神障がい者に対して、いろいろ民間も就労訓練の場としての作業所はありますけれども、市役所でぜひとも就労訓練の場として就労体験ができないかどうか、また、そういうふうな企画をぜひ、市役所でもそういうふうな体験の、訓練の場を設けていただきたい。設ける目的というか、お願いする分に関しては、どうしても社会に出る機会が非常に限られている、あるいは民間の雇用の促進の一環として、こういうふうな場をぜひとも、そういうふうな障がい者の方々にも窓口を広げていただきたいといった思いの中で、就労体験をぜひ、そういうふうな形で官でやっていただく考えはないのかどうか、ちょっとお尋ねをさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

例えば、去年、ちょっと行いましたけど、文書室の仕分け、市役所の1階のなんですけど、やっぱりちょっと狭いんですよね。狭いし、いろんな高いものとかあって危ないというのがちょっとあって、ちょっと今の市役所で就労体験まで入れるということ、非常に物理的に、やっぱり厳しいという観点から、今度、新しい、今3案ありますけど、どの形になるにしても、就労支援のためのだけというのは、それはちょっと難しいんですよ。ですが、それを兼

ねて、もう少しスペース的にもゆとりを持ってできるようにするようにはしていきたいということをおっしゃっていますので。

ちょっと話それますが、やっぱね、役所、書類多過ぎ。その書類多過ぎて、もう床抜けそうですもん。ですので、これは黒岩幸生議員、IT特別委員長もおっしゃっていますし、山崎CIOもおっしゃっていますけれども、可能な限り書類をもうスキャナーしてね、私のように漏れないようにして、きちんとやっぱり保存をして、なるべくスペースを、そういった就労支援の活用のある場であるとか、そういったものに置きたいなということは、アメリカに牟田前議長と一緒にいったときも同じことをおっしゃっていましたので、そういうふうにしていけば、もっと障がいをお持ちの方々の就労体験につながっていくものというふうに、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともお願いしたいということで、一般就労の中で、どうしても雇用型のA型作業所、また非雇用型、B型作業所というのが作業所の区分けがありますけれども、障がい者にとっては、A型の作業所がもう最後の職場というか、になっているわけですね。そういった中で、A型作業所の新規参入の促進を行政としても後押しをぜひともしていただきたいということで、どうしても武雄管内あたりのA型作業所は1カ所しかないわけですね。B型作業所はあちこちありますけれども、障がい者の経済的自立という部分を考えてときには、このA型作業所をいかにふやしていくかということが親御さんにとっては非常にですね。やっぱり、高校を卒業してからどこに働かせようかと。それと、どうしても親が早く亡くなるわけですから、亡くなった後に子どもをどうやって自立、自分で働かせる環境を今つくってやっていかんといけないという状況の中で、ぜひともやっぱり行政が、ここは民は民でできる分は当然民でしてやるべきですけれども、すべきですけれども、やっぱり官でこの辺の分は何とかもう少し後押しをしていただいて、A型作業所の普及、あるいは参入を促進をぜひともお願いしたいというふうな形で思っておりますけれども、その辺の見解をちょっとお尋ねさせていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も同感です、これは。ですが、どういうふうになればいいのかというのは、ちょっともう少し教えていただければありがたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

知的障がい者、それから精神障がい者の雇用というのは非常に、現実的には厳しい部分が当然あります。そういった中で、極端に言えば、そういう方々を抱えている親御さんにとっては、やっぱり一時預かり的なB型作業所は、要するに低賃金ですよ。1カ月何千円かの労賃で、それは障害年金あたりもありはしますけれども、もう低賃金の作業所。要するに、B型作業所というのは生活訓練の場所ですね、要は。そういった中で、A型作業所となると、ある程度の賃金が保障されていますから。そういった中でなってくると、なかなかA型作業所が少ないわけですよ。それをA型作業所をぜひとも新規参入というか。

〔市長「どう支援をすればいいんですかね」〕

例えば、A型作業所を設立していくためには、なかなか、雇用してですね、障がい者ですから、生産性がどうしても低いわけですね。そうなってくると、やっぱりどうしても企業というのは参入が、そこにどうしてもですね、赤字といいますか、雇用したくても雇用できない状況がそこに現実に出てくるわけですよ、ある程度の賃金を払うということになれば。それと、生産性がマッチすればいいとでしようけれども、なかなかそこに生産性が伴わない部分が出てくるものですから、そこを何とか行政でも穴埋めができるような体制づくりをということで、これは私もせんだっての国会議員のほうにも要望をさせていただいたところでございます。

そういった形で、私も、もう少しA型作業所あたりの普及をどうやっていけば障がい者の就労支援につながるのか、検討をさせていただきながら、これはまた12月の議会の中でも一般質問させていただきたいと思っておりますので、どうかその辺も、こういうふうな現状があることをまずは認識していただいて、何とかそういうふうな障がい者の就労支援につながるような対策を検討もあわせてお願いしたいことを質問させていただきながら、2番目の若者の経済的自立支援ということで質問に移っていきたいと思っております。

まずは、ニート、それからひきこもりの若者の実態はどうかということ、ニートとかひきこもりの実態調査というのは非常に難しい部分があるかと思っておりますけれども、市として、その辺のニート、それからひきこもりの若者の実態はつかんでおられるのかどうか、確認をさせていただきたいと思っております。御答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

武雄市において、今言われたニート、ひきこもりの状況ということで、数値等については把握していないところであります。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

把握していないということですが、ただ把握しにくい部分が非常にあるわけですね、現実的には。

そういった中で、ことしの4月の労働力調査で完全失業率が4.8%ですよ。その中でも年齢別から言うと、15歳から24歳が9.9、25歳から34歳が6.0という高比率なわけですよ。（発言する者あり）どうしても、こういうふうなニートとかひきこもりの若者というか、方々は、やっぱり市の福祉的な支援にどうしても最終的には頼らざるを得ない状況が出てくるのではないかということで、その実態がつかみにくい状況ではありますけれども、いろんな民生委員さんとか、やっぱり個人情報がありますから、なかなかその辺の実態が浮き彫りにできない部分があるかと思えますけれども、ある程度の人数の把握をしていただきながら対策を講じていくべきじゃないだろうかということで思いますが、市長の見解をよろしく願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは基本的に、質問の項目はニートとひきこもりになっているんですけど、これは私見を言えば、ニートとひきこもりというのは、定義によりますけど、ちょっと分けて考えたほうが良いと思います。私も明るいひきこもりで、今もひきこもりみたいなもんなんですけども。ですので、そこは、何というんですか、経済的な問題と心の問題というのは、2つあるんで、そこはちょっとある程度分けて考えたほうが良いということをお思います。

それで、問題なのは、このニートなんですよ。ニートというのは、一面によれば、社会が一定豊かなんでニートが発生する余地というのが1つあると思います。それともう1つが、若年層の失業率が余りにも高いので、なりたくてもできないという、2つの、日本の場合は側面があって、実は仕事を選ばなかったら結構あることはあるんですよ。ですので、そういった中で考えたときに、やっぱり農業ですよ。農業です。

ですので、これね、今、実は糸島、福岡県の糸島には東京とか大阪から結構移住してきている、これこそIターンで移住してきてくれる。まあ、江原さんは嫌いなんですけどね。Iターンというのがあって、そのIターンの中でいろんな、農業を糧としてやるという方々がふえていて、実は糸島がもう今はそれで結構パンクしているんですね。

〔6番「ああ、糸島……」〕

そうなんです。ですので、今、糸島の方に僕らがお願いをしているのは、そこでどうしても吸収できない方を武雄にどうでしょうかということで、来て、今、徐々にその流れがふえつつあって、ですので、農業は楽な仕事じゃありません。楽な仕事じゃないし、非常につらい部分もあります。天候に左右されるというところもあるんでね。そこはパラダイスとい



うわけにならないんですけれども、でも、これだけやっぱり農業というのが見直されていて、しかも、この前、「カンブリア宮殿」でもありましたけど、やっぱりいい農作物というのは売れるんですよね。そういった中で、我々とすれば、もう一回農業というのを格好いいというふうに定義をし直して、そういうふうに、福岡はかわいくというのができました。かわいい農業でもいいと思います。山口裕子議員さんみたいにかわいいと。——ちょっと言い過ぎました。

ですので、そういうふうに、何というんですか、農業の持つ、そのイメージというのを再構築した上で、かつ、やっぱりそれが雇用につながるようにしていきたいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひともですね、農業あたりも非常にいいことだと思います。

ただ、そういった中で、お結び課、それから消費生活相談、法律相談ですね、それと、こころとからだの健康相談ですか、これは市長、ぜひとも市の重点政策としての雇用、就労支援という部分の中で、市民に見える課、しごと課、しごと相談室ということも、それは当然、武雄市にはハローワークがありはしますけれども、なかなか相談業務が、ありはするけれども、なかなか現実的に厳しいようであります。

どこかにこういうふうな、しごと相談室的なものを設けていただいて、気軽に相談できるような形、だから、先ほど糸島の農業の話もされました。あっても、そいぎ、どこに相談すればいいのかという、そういうふうな窓口の設置をどこかで設けていただきたい。要するに、消費生活相談はあるわけですよ。法律相談もある。こころとからだの健康相談室もある。やっぱり就労という場も今後どこかでとっていくような形でしていただければ、私自身もいろんな相談業務が多かわけですよ。仕事をどこかないでしょうかとか、あそこはどういう状況だろうかということ。ぜひとも、そういうふうな形で市民に見える課といいますか、しごと課、しごと相談室の設置を市長、ぜひともお願いしたいと思いますけれども、その辺の見解をお尋ねしたいと思います。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

僕も初めて知りましたが、ジョブカフェ武雄サテライトというのを細々やっているみたいなんですね。なんで、これがちょっと私も知らないぐらいなんで、一般の市民の方々が知らないというのは、それはちょっと我々の周知不足だというのはあるんですけれども。

一方で、私は、何というんですか、相談室をつくるのは反対です。というのは、どうして

も、やっぱりハローワークに情報が全て今集約されているんですね。ですので、どうしても我々が相談しても、やっぱりハローワークに行ってくださいということを言わざるを得ないんですよ。ですので、そう考えた場合に、一考ちょっと考えたのは、ハローワークともう少し連携を深めるというのはあると思います。ですので、さっき糸島の話とかというのをハローワークに入れようと思って。そうすると、ハローワークに行ってくださいれば、ハローワークにのらない事業というのはあるんですよ、どうしても。あるんだけど、例えば、農業とかだったら、市からこういう情報が来ていますと、この部分については市の営業部の担当課にお越しく下さいというふうにして、むしろそっちにちょっとシフトさせたほうがいいかなと。

だから、ハローワークの仕事をいたずらにふやそうと思っていないんですよ。思っていないけれども、その中でハローワークの仕事の中に連携ということを深めていって、そこに窓口の一元化をさらに進めたほうがいいのかというのは思います。

ただ、一方で、これ厚生労働省も物すごくここは一生懸命やっているんですね。一生懸命やっていますので、うまくやっぱり連携を図っていきたくて、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私もジョブカフェはあるのはわかっていました。ただ、なかなか市民には知られていないのが現況ですよ、要は。だから、こういうふうな形で、もう少し、しごと相談室、課を立ち上げて、よりよい相談業務をしていただきたいという思いの中で話をさせていただきましたけど、要は、さっき市長が言われたように、ハローワークとの連携ですね、それを徹底して行っていただいて、情報をフィードバックしていただきたいと切にお願いをしておきたいと思います。

それでは、次にですけれども、そういうことで地元雇用の促進の一環として、武雄商工会議所、あるいは商工会、各事業所との合同説明会の開催もぜひとも市長、やっていただければどうかと。やっぱりどうしても高校を卒業すると、もうほとんどの学生が東京、大阪に就職してしまう。地域でもそうですよ。せっかく卒業したかと思えば、都会に出てしまうというのが現状ですから。佐賀県ではそういうふうな合同説明会がっております。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○6番（松尾陽輔君）（続）

ただ、地元の商工会議所、商工会とは、そういうふうな仕事の場の雇用をぜひともお願いできないかということで思っておりますけれども、簡潔に、計画はいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

武雄市独自といいますが、なかなか企業さんたちも少なくできませんので、ハローワークのほうで来週の9月20日に管内の企業数社参加していただいて、試行的にミニ面接会というのを開催するようになっております。その結果によって、継続的に実施していきたいというふうなことを伺っておりますので、ハローワークのほうで実施されるということで、よろしくをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも、ハローワークではいいでしょうけれども、その辺の連携もとりながら、市民のほうにもフィードバックしていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

もうあと3分しか残っていませんので、最後の、生活保護者の求職支援事業というふうな形で、福祉から就労事業が実施ということで、この件に関しては川原議員も質問をされておりました。

23年度、6名中1名が生活保護を受けながら就労されたと。その人数、6名から1名、それはもういいことですよ。あとの5名は、なぜ就労に至らなかったのか、その原因が大事な部分ですね。今年度26名ですか、そういうふうな支援制度にということで人数も言われましたけれども、25名ですか。

前年度、23年度の5名が就労に至らなかった原因はどこをつかんで、どういう理由でというのはわかっていらっしゃるのかどうか、把握されているのかどうか、簡潔に御答弁をよろしく願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

福祉から就労支援事業ということで、ハローワークと連携しながら事業に取り組んでいるわけですが、議員おっしゃっていただきましたように、昨年度6名を対象として実施計画を作成いたしまして、うち1名の方が就労に結びつきまして生活保護を廃止したという実績でございます。

残りの5名の方がどうして就労に結びつかなかったかということでございますけれども、いろんな理由があるわけですが、一番多かった理由が年齢的に採用されないということで、結構50歳以上の方が多くということで、なかなか高齢というふうなところです。

2つ目として、有資格が求められているということで、資格を持っていないとなかなか採

用できないと。

それから、あと、勤務地が遠方ということで、保護者の方は基本的に車をお持ちでございませんので、通勤手段に限られるというふうなところの中で採用に至らなかったとか、いろんな理由がありますけれども、大きな理由の3つということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも、そういうふうな理由をわかっている以上は、それをどう克服していくかということをもう一度確認をしていただいて、対応していただきたいと思います。

それでは、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で6番松尾陽輔議員の質問を終了させていただきます。